

平成 26 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	一般社団法人 72 時間サバイバル教育協会
活動テーマ	全国実施可能な汎用性のある減災プログラムの開発



災害現場で人命救助時に念頭に置かれるのが、「72時間の壁」である。72時間を超えると生存率が極端に下がる。一方「防災訓練」と言えば、一時避難の訓練が多く災害発生時の初動期を想定したものが多く。しかし現実には「ライフラインが寸断」、「自分の住んでいる集落が孤立」などと救助が来るまでの72時間を生きなければならない。つまり一時避難してから救援が来るまでの時間をいかに生きるかが、減災を考える上では欠かせない。したがって「救援が来るまでの72時間をどう生きるか」に特化した、地域性や災害種別に応じた減災プログラム開発が必要であると考えた。当協会では2年間にわたって、72時間サバイバルキャンプのプログラム開発を行ってきた。プログラムの形はできつつあるが、地域のニーズや災害種別等に応じた汎用性を持たせるという点で不十分である。そのため、本助成金では全国各地で開催可能な汎用性をプログラムに組み込み、全国各地で減災に向けた取り組みを促す契機としたい。汎用性に向けた工夫をしていくにあたって、減災プログラム内では、次の4点を目的とする。

①災害時のリスクマネジメント学習：野外活動のノウハウを最大限取り入れ、災害時に直面する可能性のある、応急手当、救助の知識とそのリスクを学ぶこと。②サバイバルマインドの育成：自分の命とその場を共有する人の命が生き残ることと生き残れない可能性について非日常的環境に身をおくことで、よりリアルに考えること。③自助と共助の体験：プログラム内では、自分で考え行動すること、人と共に協力しながら、今ある資源の中で工夫し困難を乗り越えることが求められる。そのため、非常時における自助と共助の必要性を学ぶこと。④地域資源の活用：行政がすでに作成・準備しているものを活用したり既存の防災訓練と接続させ、地域コミュニティ形成に向けたきっかけづくりを行うこと。